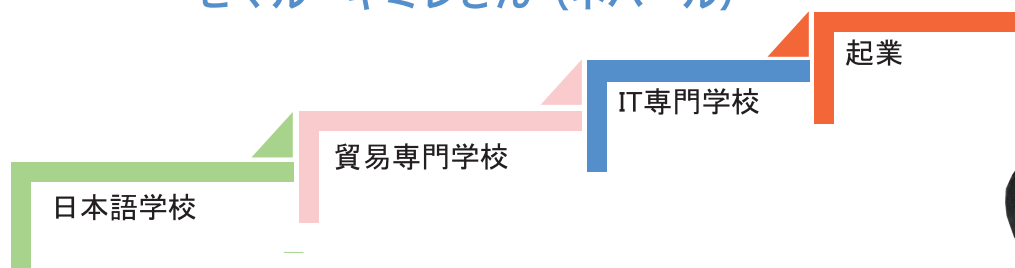


有益なアルバイトと奨学金

ビマル ギミレさん (ネパール)



私はカトマンズ、ネパール出身のギミレビマルと申します。2009年10月に日本語を勉強しに来日しました。初めは、日本語そして日本の文化やマナーなどの勉強をするために、横浜市にある横浜ふれあい専門学校・日本語学科に入学しました。1年と6ヶ月、日本語学校に通い、卒業後には同じ横浜市にあるグレック専門学校で英語と貿易の勉強をしました。その卒業後、今度は横浜工学院専門学校でITを勉強しました。そして合同会社K&Gを設立し、現在インドネパール料理を経営しております。本日は皆さんに、私が来日した理由や、日本での生活にて起こった様々なこと、日本で仕事を探していたときのこと、日本語の勉強の仕方などについて、自分の経験を話していきたいと思います。

初めに、日本語についてお話しします。私が留学した当時は今のようにN5の試験を受けていなくても留学することができていました。しかしN5も受けていない私たちは、かなり苦労しました。日本に到着して2か月ぐらいは資格外活動はできません。今はN5などを受けていると、日本に到着する時には既にある程度の語学ができるので、すぐにアルバイトを始めても言葉が通じます。つまり留学生のためには、規則を厳しくしたことは良いことだったというわけです。昨今の留学生はそういう意味ではラッキーだと思います。私たちも勉強して来日していれば、到着した翌日からアルバイトができたのに、とうらやましく思います。来日から2か月经った後、アルバイトを探しはじめましたが、なかなか見つからず、もう2か月ほどは働くことが出来ませんでした。ネパールから持ってきたお金は無くなり、友達にも頼めず、先輩のネパール人からお金を借りたりしていました。

日本語は、日本語学校で勉強するのは当たり前ですが、アパートに帰ってからも学校で勉強したことを復習すると良いです。特に友達と住んでいる人は、ネパール人同士でも日本語で話す練習をすることをお勧めします。母語ではないので、友達の日本語が間違っても笑ったり、からかったりしてはいけません。ゼロから学ぶ言葉ですから間違えるのは当たり前です。そして日常生活でも出来るだけ日本語を使うことも大事です。アルバイトをするときも日本語が話せるところを選んだ方が練習になります。初めはレストランのキッチンでの仕事であっても、日本語の上達に応じて、ホールでお客様を相手にサ

ービスをする仕事ができるようになるのが望ましいです。スーパーでアルバイトをする場合も品出しよりレジでお客様とコミュニケーションをとる仕事の方が訓練になります。日本人と積極的に話をするように努力すると、やがて恥ずかしくがらずに話ができるようになります。

私のアルバイトの経験も話したいと思います。私は、最初は飲食店のキッチンで働き始めました。大手居酒屋チェーンの採用面接で、店長に「できるか？」と質問されました。「やってみないと分からない」と答えたら、「じゃあ、やってみて」と言われて、働くことになりました。採用され、キッチンに配属となりました。日本語を使わなくて済むし、「ラッキー！」と当時は思っていました。キッチンでは仲間ができたり、料理名を覚えたりはしましたが、やはりホールの方が日本語の練習につながるので、ホールでの仕事を希望しました。その頃の私は、少し日本語も覚えてきていたので、ホールの仕事に変更してくれました。接客をしていく中で、日本語にも自信がもてるようになりました。日本語でのコミュニケーションの経験が増え、スーパーでも接客の仕事をしました。商品の名前、商品の説明の仕方、接客で使う言葉など、覚えなといけない日本語が沢山ありましたが、それにより使える日本語に幅が出てきました。それまでのアルバイトと比べて、語学学習の面ではとても勉強になりました。わからないことを日本人の社員やアルバイトの方に相談することによって、コミュニケーションも生まれました。当時の日本は、今のような人手不足の問題がなく、宅配便の配送センターでも日本語が通じないと雇ってもらえませんでした。私はアルバイトを通じて多くの日本語を学ぶことができました。ですのでアルバイトは収入のためという点のみで選ぶのではなく、日本語力を向上させる観点においても選ぶことが大切だと痛感しています。

今でもアルバイトを、法定で認められている週 28 時間を超えて行っている人もいますが、そこまでアルバイトをすると、3つの大きな問題があります。1つ目に、違法であることです。2つ目に、体がもたないことです。3つ目に、勉強する時間が確保できないことです。ですので、今はしっかり将来を見据えて、勉強に集中した方が良いです。専門学校の後就職をするなら、卒業までにしっかり学べば、今のアルバイト代よりもたくさんの収入を得ることが出来ます。アルバイト情報誌、家に入っているチラシ、コンビニのアルバイト情報などすべて日本語です。それらに書いてある情報が私たちにとって大変有意義なものがあるかもしれません。しかし、それらを読めないとその有意義な情報を捨ててしまうことになります。漢字の学習に力を入れて、日本語を理解できるようになれば、将来の可能性が広がります。卒業後、ブローカーにお金を払って仕事を探さなく、自力で会社訪問などできるように読み書きはしっかりできるようになりましょう。ネパール人は英語もできる人が多いので、日本語と英語両方使えたら、就職に有利です。

次に奨学金について話します。日本では外国人留学生のために奨学金を設けていることが多く、そのほとんどが成績や出席状況をもとに採用が決められます。課された課題をしっかりとやって、熱心な留学生であることが学校に伝われば、学校もその留学生を推薦するでしょう。奨学生として採用されると、アルバイトの給料のように毎月決まった額が奨学金として振り込まれますので、アルバイトをしていた時間は勉強に使うことができます。私は専門学校に通っていた時は奨学金をいただいていたので、アルバイトに割く時間を勉強に使うことができました。資格外活動許可の上限である 28 時間も気にせず済みました。

最後に就職についてお話しします。専門学校や大学を選択する際には、卒業したあとに、どの分野に進みたいかということ考えることが大切です。日本では、あらゆる情報が日本語で書いてあるので、就職や奨学金についての情報が学校で掲示されていても、日本語が分からないとその情報を得ることができず、大切なチャンスを逃してしまいます。私は英語や貿易の勉強をしていましたが、そのような情報を得ることが出来なかったので、就職することができませんでした。その結果、IT の専門学校に行き直すことになりましたが、その前に就職の情報について教えてくれる先輩がいれば、より早く卒業して仕事ができたらと悔しい気持ちもあります。専門学校に行っている間はビザがあるから大丈夫だ、という生半可な気持ちではいけません。就職情報を得て、早い段階で就職活動をすれば、就職のチャンスは広がります。日本は留学生には寛容な社会ですし、外国人留学生歓迎という企業も年々増えている気がします。やる気と能力があれば皆さんを採用してくれる会社はきっと見つかると思います。

一方でアルバイトの会社に気にいられて、卒業後も働いてもいいよと言われたとしても、気を付けなくてはいけない点があります。その会社での就職が在留資格の対象になるかどうかなどのリサーチは必要です。例えばファッションやデザインなどの勉強をしている学生も多いですが、就職という意味では、そのような業界は狭き門だと思いますので、優れた実力をアピールできないと難しいでしょう。いずれにしても日本語をしっかりと学び、専門分野で資格の取得をして、就職関係のリサーチを早めに行いながら努力を重ねれば、皆さんは日本で就職できると思います。一緒に頑張りましょう